

2023年度

東北工業大学公募制推薦型選抜

「小論文」問題用紙

【注意事項】

「小論文」を記述するにあたっては、次の要領に従ってください。

1. 鉛筆またはシャープペンを使用してください。
2. 受験学科、受験番号、氏名を記入してください。
3. 記述は横書きで、時間は80分です。
4. 配布した〈小論文 メモ用紙〉は、メモ用として使用してください。提出は不要です。

【問題】記事「住民ら安堵「賢明な判断」 関電、風力発電断念 蔵王連峰」を読み、次の課題に答えなさい。

I 記事の要旨を200字以内（句読点を含む）で書きなさい。

II 記事の内容をふまえて「再生可能エネルギー普及のために地域の理解をどのように得るか」という課題についてのあなたの意見を600字以内（句読点を含む）で書きなさい。（意見を述べる際には、そのように考えた理由を必ず記述すること）

【記事】「住民ら安堵「賢明な判断」 関電、風力発電断念 蔵王連峰」

関西電力が29日、宮城、山形県にまたがる蔵王連峰で計画していた風力発電事業を撤回した背景には、景観や生態系への影響を危惧する地元の強い反発がある。撤回を受け、計画地周辺の住民や観光業者からは、一様に安堵（あんど）の声が上がった。

「大切な景観を壊すことになる大変憂慮していた。非常に賢明な判断がなされた」。関電の発表を受け、宮城県の村井嘉浩知事は報道各社の取材に真剣な表情で評価した。山形県の吉村美栄子知事も「地域の蔵王への強い思いを理解いただけたと受け止める」とのコメントを出した。

計画は当初、宮城県川崎町の山地約1600ヘクタールに高さ最大180メートルの風車を23基設置し約10年後の運転開始を目指していた。これに地元関係者は「有数の観光地である蔵王連峰の景観や生態系が損なわれる」と危惧。6月初旬に市民団体を結成し、約4000人分の反対意見を集めた。

関電は計画を見直し風車を19基に減らし、6月下旬には川崎町で住民説明会を開いた。だが、説明会の一部を報道各社に非公開にしようとしたことに参加者から異論が相次ぎ、「同じ質問なのに担当者ごとに答えのニュアンスが変わる」（小山修作町長）などと、関電の姿勢に不信感が強まっていた。

小山町長は29日、毎日新聞の取材に「ほっとしているのと同時に多くの人が蔵王に関心を持っていると実感した」と語った。市民団体の佐藤雅宣共同代表（43）も「住民の不安が町長や知事に伝わり民意となった結果だ」と話した。蔵王温泉観光協会（山形市）の伊藤八右衛門会長は「県の観光産業にとって良いことだ。関電は（計画を）ぶり返さないで」と注文した。

そもそも関電が“外様”企業であることも地元の理解を得られない一因だったとみられる。村井知事は29日、「（関電の）お客様のいる関西で事業をするべきではないか。東北を金儲けの道具に使ってはならない」と不快感を表明。伊藤会長も「（関電に）東北蔑視の考え方がある。住民説明会という形だけ踏めばよいという考えがみえみえだった」と手厳しい。

国は50年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする目標を掲げる。年間を通じ風況の良い東北は風力発電の計画が数多くあるが、それに伴い各地で反対の声も強まっている。青森県の三村申吾知事は6月、県議会で「再生可能エネルギーというとなんでも、どこでもいい、という昨今の雰囲気はおかしい」と疑問を呈した。

蔵王の問題を受け、村井知事は、風力発電施設の建設に地元の同意を条件とする必要性を訴える。再エネ普及に地域の理解をどのように得るか、重い課題は残されたままだ。

（『毎日新聞』、2022年7月30日より）